

別添

自然環境整備計画
【令和2年度～令和6年度】

やまがたけん
山形県

令和1年12月

自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	山形県	個別地域	蔵王国定公園
-------	-----	------	--------

計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度
------	-------------------

目標

大目標:老朽化した施設と新たな歩道の整備による自然環境の保全及び適正な利用促進
 目標1:蔵王山周辺の歩道等施設の整備により、植生の保護及び利用者の安全性の向上を図る。
 目標2:歩道等の整備により、利用者の満足度・快適性の向上を図る。

目標設定の根拠

個別地域の現状

- 蔵王国定公園は山形県と宮城県の県境に位置する蔵王連峰及び面白山一帯の火山群により構成される山岳自然公園であり、蔵王には全国的にも有名な火口湖である「御釜」がある。
- 蔵王国定公園は交通機関の利便性が高く、観光の拠点としても重要な地域である。
- 蔵王国定公園には県内外から年間約4,317千人(平成29年自然公園等利用者数調)が訪れており、歩道等施設の利用率は高い。

課題

- 歩道等施設は厳しい自然条件下にあり、整備後の経年劣化などのため老朽化が進んでいる。
- 利用者が老朽化した歩道等の利用を避けて植生のある場所に踏み入るようになるため、踏圧による植生の荒廃が認められる。
- 既存の登山道は土砂流失による岩の露出などにより通行が困難となり、利用者が植生帯の中に踏み入ることで路線が複数化していることから、怪我や遭難のおそれがある。
- 活火山である蔵王山の活動に変化が認められた場合、登山者の早急かつ安全な避難が求められる。

個別地域の整備方針

整備方針(植生の保護)

- 裸地化を未然に防ぐため、歩道等を整備することにより、植生部分への踏み込みを防止する。
- 貴重な高山植物植生地に立ち入らないように歩道周囲にロープを設置する。

整備方針(安全性の向上)

- 歩道構造物を整備することにより、雨天時でも滑りにくくし、利用者の転倒による怪我の危険性を軽減させる。
- 歩道等施設の整備により、ルートを明確にし、悪天候時の遭難発生を防止する。
- 火山活動に変化が認められた場合、登山者を早急かつ安全に避難誘導する。

整備方針(利用者満足度の向上)

- 歩道を整備することにより、歩道利用者の安全性・利便性の向上を図る。
- 高山植物等を保護することにより、利用者が高山植物等の山岳資源の魅力に触れ、満足度の向上・リピーターの増加を図る。

方針に沿った主要な事業

(国定公園)
 1-1蔵王温泉・熊野岳循環線歩道(県)
 1-4お清水刈田線歩道(県)

(国定公園)
 1-1蔵王温泉・熊野岳循環線歩道(県)
 1-2南面白山線歩道(県)
 1-3清水熊野岳線歩道(県)
 1-4お清水刈田線歩道(県)

(国定公園)
 1-1蔵王温泉・熊野岳循環線歩道(県)
 1-2南面白山線歩道(県)
 1-3清水熊野岳線歩道(県)
 1-4お清水刈田線歩道(県)

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
公園利用者数の増加	千人	利用者数の増減数値	山形県観光者数調査における山岳観光者(蔵王)の数値	「利用者満足度や安全性の向上」に対応する指標とし、利用者数の増加が利便性・安全性の向上を示す数値となる。目標値は従前値の5%増加の値とする。	217.3	平成30年度	228.2	令和6年度

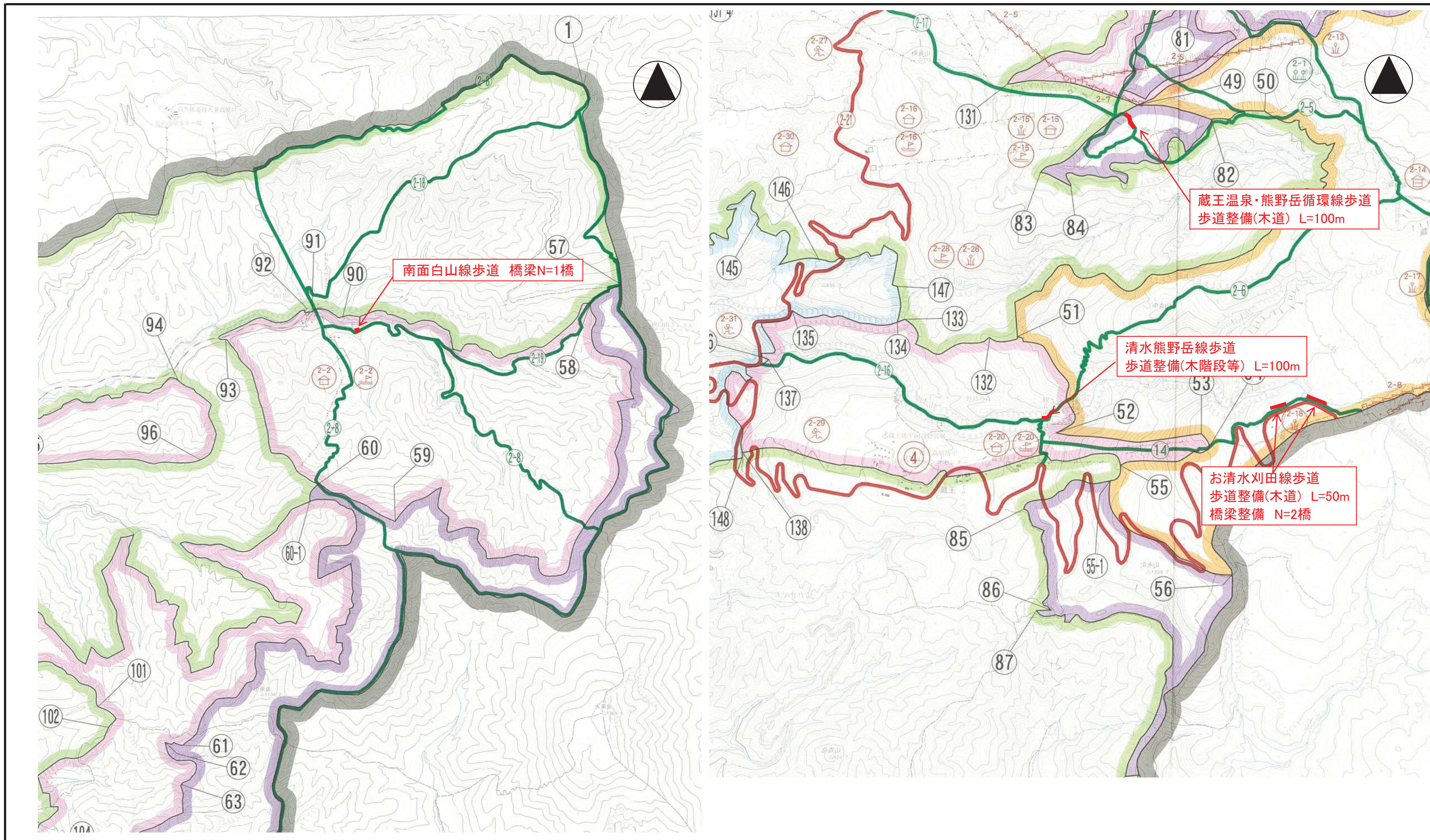
その他必要な事項

【合意形成の状況・方針】

- 地元市町村等からの施設整備の要望箇所を調査し、県が配置している自然公園管理員等と意見の調整を図っている。
- 事業の執行にあたり、国有林野の貸付、使用許可及び保安林内作業許可が必要な場合は、地元の森林管理署に所定の手続きをとる。

(参考) 自然環境整備計画(山形県)の概要図

個別地域	所在地
蔵王国定公園	山形市、上山市



自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	山形県	個別地域	栗駒国定公園
-------	-----	------	--------

計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度
------	-------------------

目標 大目標:新たな歩道等の整備による自然環境の保全及び適正な利用促進 目標1:歩道等の整備により、植生の保護を図る。 目標2:歩道等の整備により、利用者の安全性・利便性の向上を図る。
--

目標設定の根拠 個別地域の現状 ・栗駒国定公園は岩手県、宮城県、秋田県、山形県にまたがる標高1,627mの栗駒山を中核とする山岳自然公園であり、神室連峰はその南西端に位置する。 ・栗駒国定公園(神室山)には「ミネカエデ」などの美しい灌木帯が見られることなどから、年間約27千人(平成30年度山形県観光者数調査)が訪れている。
課題 ・利用者が浸食した歩道の利用を避けて植生のある場所に踏み入るようになるため、植生の荒廃が認められる。また、利用者にとっては転倒によるけがや遭難のおそれがある。 ・既存の登山道は土砂流失による岩の露出などにより通行が困難となり、利用者が植生に踏み入ることで路線が複数化していることから、正しい歩道が不明確となり遭難のおそれがある。また、利用者の踏圧による植生荒廃が認められる。

個別地域の整備方針	方針に沿った主要な事業
整備方針(植生の保護) ・歩道等を整備することにより、迷い込みを未然に防ぎ、植生部分への踏み込みを防止する。	(国定公園) 1-5蒲沢線歩道(新庄市)
整備方針(安全性・利便性の向上) ・木階段等の歩道整備により、雨天時でも滑りにくくし、利用者の転倒による怪我の危険性を軽減させる。 ・歩道や標識等を整備することにより、ルートを明確にし、悪天候時の遭難発生を防止するなど、利用者の安全性・利便性の向上を図る。	(国定公園) 1-5蒲沢線歩道(新庄市)

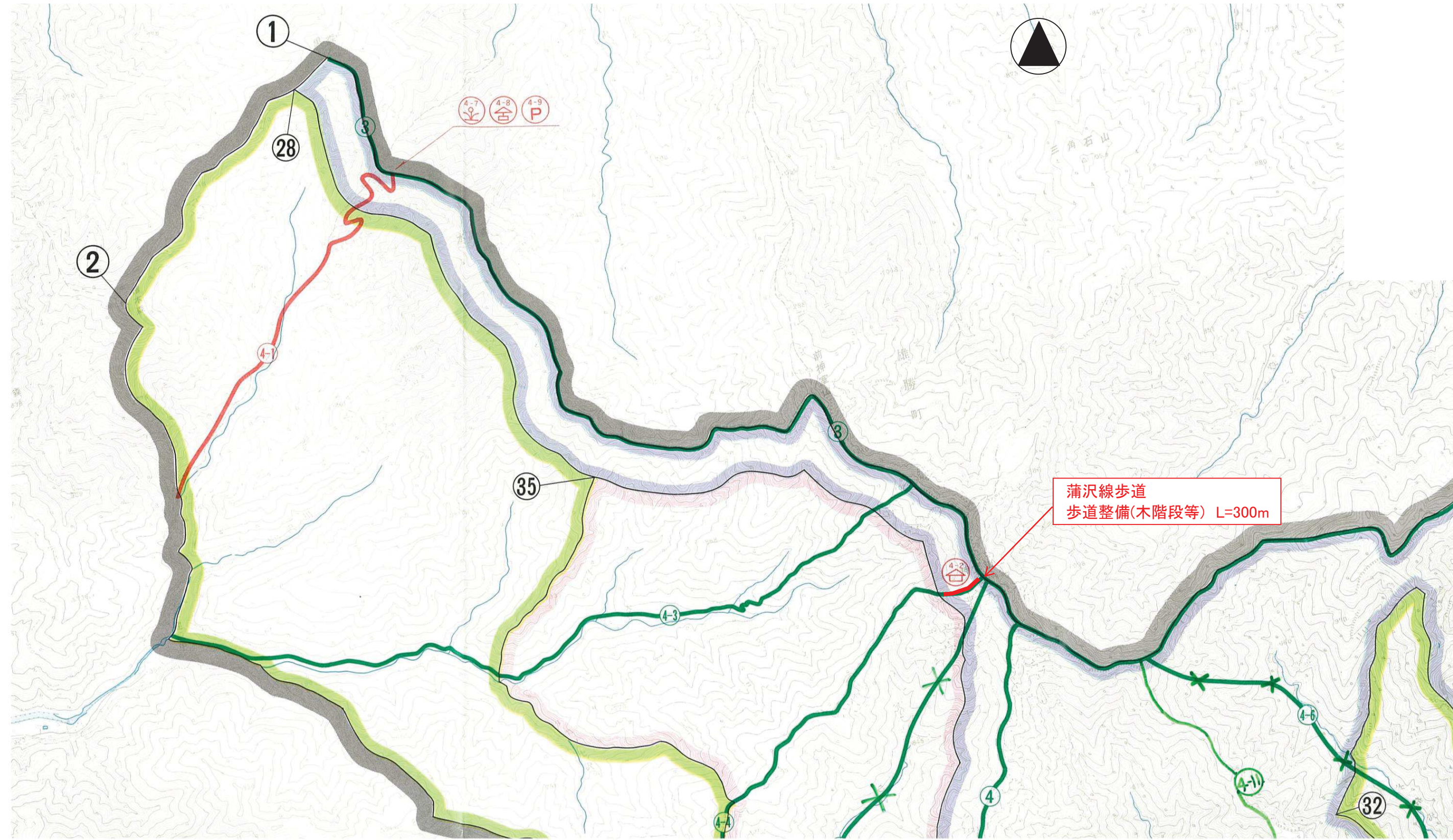
目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
					27.1	平成30年度	28.5	令和6年度
公園利用者数の増加	千人	利用者数の増減数値	山形県観光者数調査における山岳観光者(神室山)の数値	「安全性・利便性の向上」に対応する指標とし、利用者数の増加が安全性・利便性の向上を示す数値となる。目標値は従前値の5%増加の値とする。				

その他必要な事項 【合意形成の状況・方針】 ・地元市町村等からの施設整備の要望箇所を調査し、県が配置している自然公園管理員等と意見の調整を図っている。 ・事業の執行にあたり、国有林野の貸付、使用許可及び保安林内作業許可が必要な場合は、地元の森林管理署に所定の手続きをとる。

(参考) 自然環境整備計画(山形県)の概要図

個別地域 栗駒国定公園

所在地 シンジョウシ
新庄市



自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	山形県	個別地域	鳥海国定公園
-------	-----	------	--------

計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度
------	-------------------

目標

大目標:老朽化した施設の再整備や歩道等の整備による自然環境の保全及び適正な利用促進
 目標1:鳥海山山頂付近及び山頂に到る歩道等の整備により、植生の保護及び利用者の安全性の向上を図る。
 目標2:避難小屋や車道施設等を再整備することにより、周辺環境の保全や利用者の安全性・利便性の向上を図る。

目標設定の根拠

個別地域の現状

- ・鳥海国定公園は山形県と秋田県にまたがる火山孤峰である標高2,236mの鳥海山を中核とする山岳自然公園である。
- ・鳥海山は、深田久弥の「日本百名山」とともに田中澄江の「花の百名山」にも選ばれ、貴重な高山植物や湿原の花畑などの豊かな自然に恵まれている。
- ・鳥海国定公園には年間約1,870千人(平成29年自然公園等利用者数調)の利用者が訪れ、歩道やトイレ等施設の利用度は高い。

課題

- ・利用者が浸食した歩道の利用を避けて植生のある場所に踏み入るようになるため、植生の荒廃が認められる。また、利用者にとっては転倒によるけがや遭難のおそれがある。
- ・既存の登山道は土砂流失による岩の露出などにより通行が困難となり、利用者が植生に踏み入ることで路線が複数化していることから、正しい歩道が不明確となり遭難のおそれがある。また、利用者の踏圧による植生荒廃が認められる。
- ・豪雪等の厳しい自然条件下により、車道や休憩施設等の経年劣化が進んでいる。特に、休憩施設内のトイレは登山ブームもあり、ピーク時には太陽光で発電した電力で賄うことができない。
- ・活火山である鳥海山の活動に変化が認められた場合、登山者の早急かつ安全な避難が求められる。

個別地域の整備方針

整備方針(植生の保護)

- ・裸地化を未然に防ぐため、歩道等を整備することにより、植生部分への踏み込みを防止する。
- ・貴重な高山植物植生地に立ち入らないように歩道周囲にロープを設置する。

整備方針(安全性・利便性の向上)

- ・石段や石組歩道の整備により、ルートを明確にし、悪天候時の遭難発生を防止するとともに、利用者の転倒による怪我の危険性を軽減させる。
- ・登山道の分岐点に避難小屋を整備することにより、利用者の道迷いを抑制するとともに、利用者が休憩や宿泊できるよう利便性の向上を図る。
- ・劣化した車道及び休憩施設等を再整備することにより、利用者の安全性と利便性を向上させる。
- ・火山活動に変化が認められた場合、登山者を早急かつ安全に避難誘導する。

方針に沿った主要な事業

(国定公園)

- ・1-6鳥の海竜ヶ原線歩道(県)
- ・1-7鳳来山大倉滝線歩道(県)

(国定公園)

- ・1-6鳥の海竜ヶ原線歩道(県)
- ・1-7鳳来山大倉滝線歩道(県)
- ・1-8河原宿避難小屋(遊佐町)
- ・1-9湯ノ台滝ノ小屋線車道(県)

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
公園利用者数の増加	千人	利用者数の増減数値	山形県観光者数調査における山岳観光者(鳥海山)の数値	「安全性・利便性の向上」に対応する指標とし、利用者数の増加が安全性・利便性の向上を示す数値となる。目標値は従前値の5%増加の値とする。	239.0	平成30年度	251.0	令和6年度

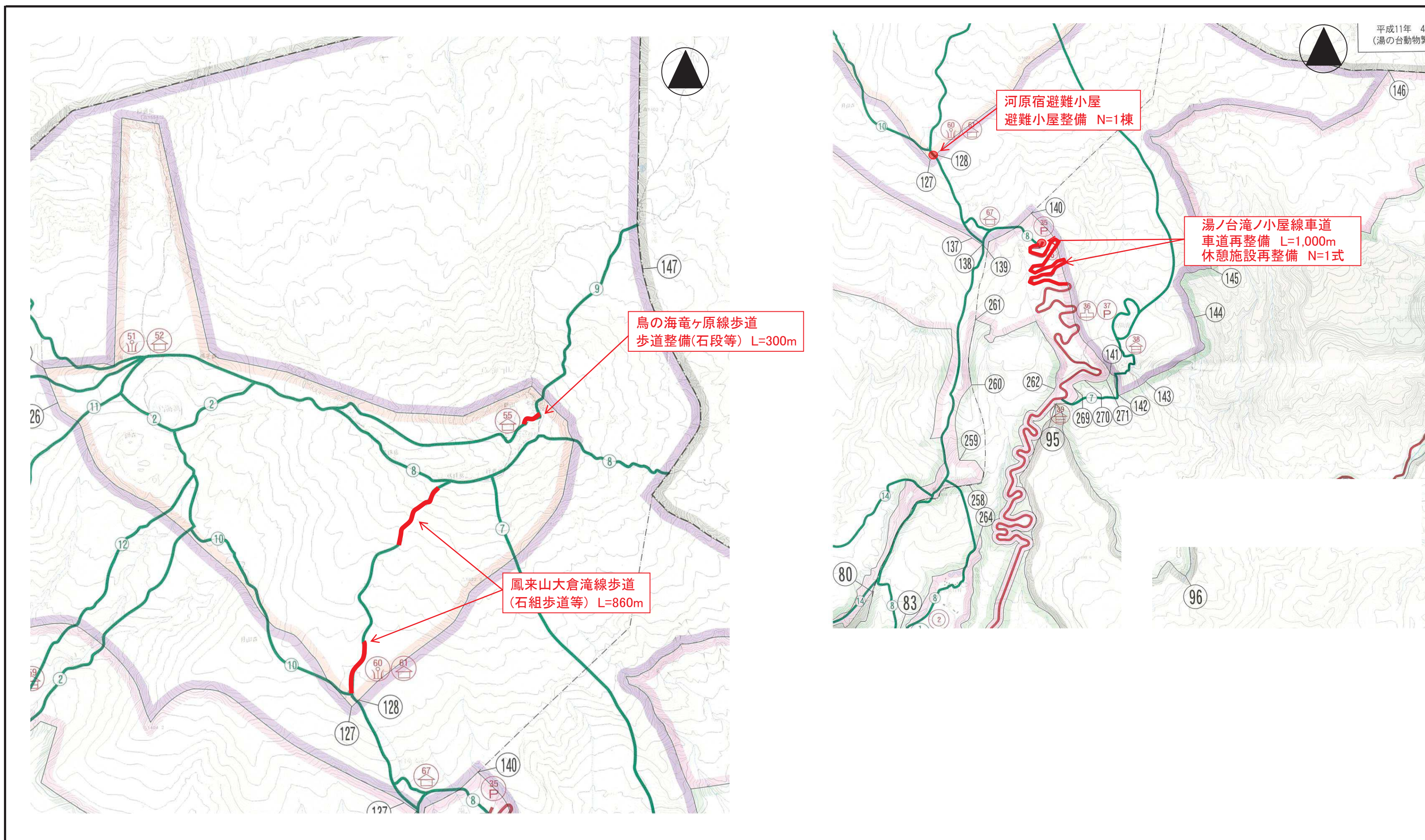
その他必要な事項

【合意形成の状況・方針】

- ・地元市町村等からの施設整備の要望箇所を調査し、県が配置している自然公園管理員等と意見の調整を図っている。
- ・事業の執行にあたり、国有林野の貸付、使用許可及び保安林内作業許可が必要な場合は、地元の森林管理署に所定の手続きをとる。

(参考) 自然環境整備計画(山形県)の概要図

個別地域 鳥海国定公園	所在地 ユザマチ サカガシ 遊佐町、酒田市
-------------	-----------------------



自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	山形県	個別地域	東北自然歩道
-------	-----	------	--------

計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度
------	-------------------

目標 大目標:老朽化した施設の整備による自然環境の保全及び適正な利用促進 目標1:老朽化した案内板や標柱等を再整備することにより、利用者の安全や利便性の向上を図る。

目標設定の根拠 個別地域の現状 ・東北自然歩道は、多くの人々が東北地方の優れた風景地を歩くことにより、地域の歴史や文化に触れながら、健全な心身の育成と自然や環境保護思想の高揚に資するものである。 ・山形県内の東北自然歩道には、県内外から年間約4,172千人(平成29年自然公園等利用者数調)が訪れ、歩道や広場等施設の利用率は高い。 課題 ・山形県内にある東北自然歩道の施設は厳しい自然条件下にあり、整備後相当の年月が経過しているため、施設の老朽化が進んでいる。 ・歩道のルートを示す案内板や標柱等が老朽化し、色落ちや劣化による機能低下や、突風などによる倒壊のおそれから、利用者の遭難や人身被害等が危惧される。 ・山形県内における東北自然歩道の利用者数が、平成9年をピークに減少傾向にある。
--

個別地域の整備方針	方針に沿った主要な事業
整備方針(安全性の向上) ・老朽化した案内板や標柱等を再整備することにより、利用者の安全や利便性の向上を図る。	(東北自然歩道) 3-1 東北自然歩道線歩道 3-2 東北自然歩道線歩道
整備方針(利用者満足度の向上) ・案内板など付帯施設の再整備により、利用者の利便性を向上させ、地域の文化・歴史や美しい風景の魅力に触れてもらうことにより、満足度の向上やリピーターの増加を図る。	(東北自然歩道) 3-1 東北自然歩道線歩道 3-2 東北自然歩道線歩道

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
					4,172	平成29年度	4,172	令和6年度
東北自然歩道の利用者数	千人	山形県内における利用者数の数値	自然公園等利用者数調における長距離自然歩道利用者数(山形県)の数値	「利用者満足度の向上」に対応する指標とし、利用者の増減が満足度・利便性の向上を示す数値となる。当面は利用者数の減少に歯止めをかけることを目標とし、目標値は従前値と同じ値とする。				

その他必要な事項 ・東北自然歩道の施設整備については、地元市町村等からの要望箇所を調査し、道路管理者や地権者等と意見調整を図っている。 ・山形県内では、既存の遊歩道等が東北自然歩道に指定されており、管理形態は様々であるが、東北自然歩道の案内板等施設については県が整備し、市町村に管理を委託(無償契約)している。
--

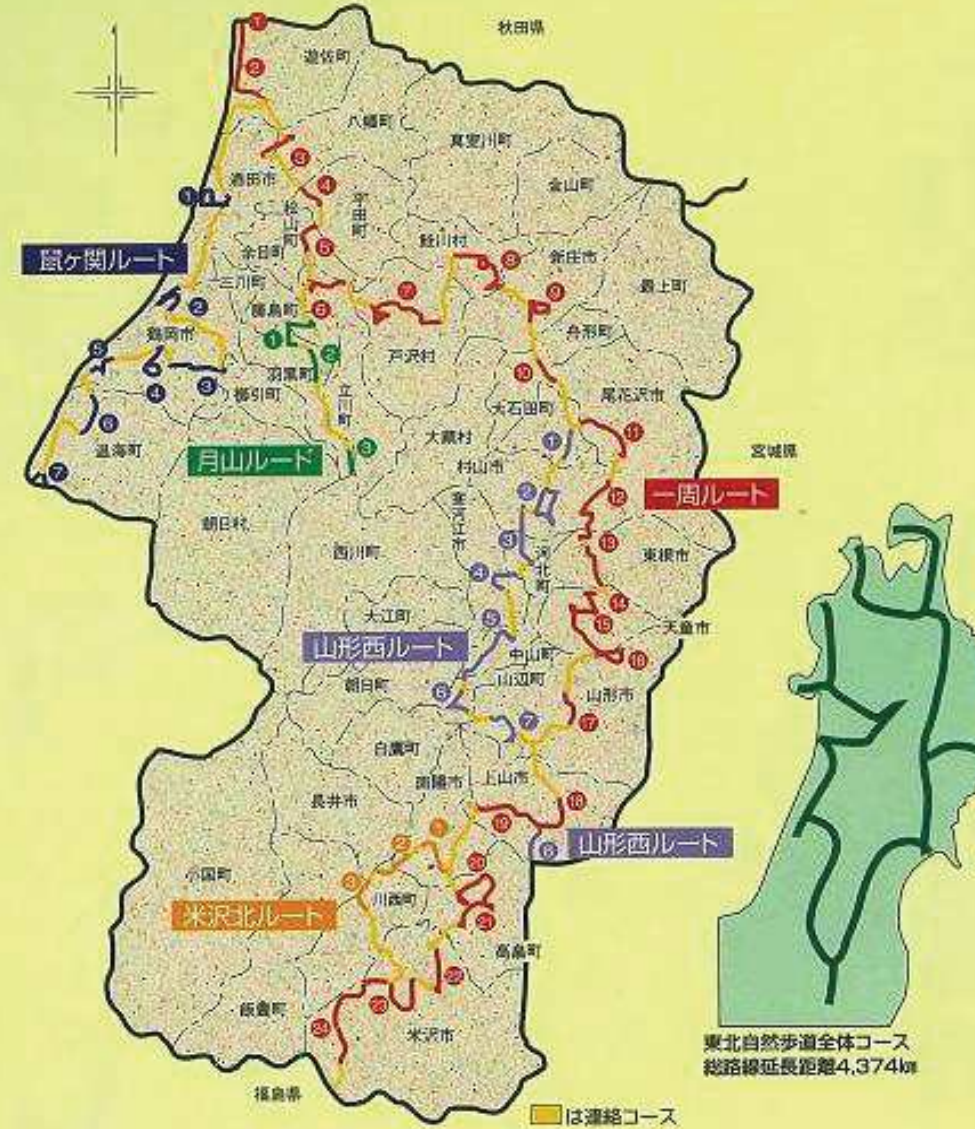
(参考) 自然環境整備計画(山形県)の概要図

個別地域	東北自然歩道	所在地	ヤマガタシ 山形市 ほか
------	--------	-----	-----------------

東北自然歩道(新・奥の細道)ルート図

一周ルート

- 1 十六羅漢と夕日のみち 7.2km
遊佐町二級公園～遊佐町JR遊佐駅
- 2 白砂青松と鳥海山を眺めるみち 10.7km
遊佐町JR遊佐駅～遊佐町JR遊佐駅
- 3 出羽の国を偲ぶみち 6.7km
八幡町安福寺～酒田港門前
- 4 庄内平野と瀧沼を訪ねるみち 8.3km
酒田市北郷～平沼町安福
- 5 緑豊かな眺海の森のみち 5.6km
平沼町酒田駅前～山形市本町
- 6 なんじゃもんじゃのみち 9.6km
山形市JR山形駅～立川町JR酒田駅
- 7 巖上岬と歴史のみち 17.4km
戸沢村JR北郷駅～戸沢村JR鳥海駅
- 8 ひめゆりの花咲く温泉のみち 10.8km
鶴岡市温泉温泉～鶴岡市川口
- 9 陣崎市民の森とやきもののみち 8.6km
新庄市金沢～新庄市森崎
- 10 緑結びのみち 6.0km
赤松町JR赤松駅～赤松町市海沢
- 11 芭蕉清流と史跡のみち 10.2km
尾花沢市尾花沢～尾花沢市尾花沢
- 12 バラと湖をめぐるみち 15.0km
村山市朝陽中学校～東根市東根温泉
- 13 大ケヤキとフルーツのみち 9.7km
東根市東根～大曲市川原子
- 14 得根と若松寺のみち 10.0km
大曲市山口～大曲市JR大曲駅
- 15 得根と山寺のみち 11.7km
大曲市JR大曲駅～山形市山形山寺駅
- 16 やまでら天台のみち 4.7km
山形市山形山寺駅～山形市山形山寺駅
- 17 やまものと伝説とせせらぎのみち 8.6km
山形市道の駅～山形市小立
- 18 蔵王信仰へのみち 12.3km
上山市大野～上山市山下
- 19 果樹園と沼のみち 15.8km
上山市上巻沢～上山市中山
- 20 自然と歴史をたどるみち 14.3km
高森町高森～高森町安久津
- 21 民話の散歩みち 7.5km
高森町安久津～高森町亀岡
- 22 アジサイ寺を訪ねるみち 9.5km
米沢市JR高森駅～米沢市万徳小学校
- 23 銀平の自然と笹野一刀影を訪ねるみち 10.3km
米沢市稲弘～米沢市稲弘
- 24 草木塔を訪ねるみち 12.3km
米沢市二田沢～米沢市入田沢



東北自然歩道全体コース
総路線延長距離4,374km

鼠ヶ関ルート

- 1 最上川と日本海の交わるみち 12.8km
高田町高田中学校～高田町高田中学校
- 2 善宝寺と高館山城のみち 15.7km
鶴岡市湯野温泉～鶴岡市大山
- 3 庄内平野展望と清正公のみち 9.5km
鶴岡市山形～鶴岡市湯野温泉
- 4 温泉をめぐるみち 7.2km
鶴岡市山形駅～鶴岡市湯野温泉
- 5 気比台・笠取峠のみち 6.2km
鶴岡市山形駅～鶴岡市湯野温泉
- 6 鍾と佐渡のみえるみち 15.1km
鶴岡市山形駅～湯野町湯野温泉
- 7 義経上陸のみち 4.7km
湯野町湯野温泉～湯野町内郷・陣崎

山形西ルート

- 1 最上川と詩歌のみち 13.6km
大石田町JR大石田駅～大石田町JR大石田駅
- 2 クアと最上川三所をめぐるみち 16.3km
村山市善徳温泉～村山市善徳温泉
- 3 紅花・薬山ロマンのみち 17.4km
村山市善徳～大北町安福
- 4 慈恩寺とさくらんぼのみち 9.5km
河北町慈恩寺～東根市市街
- 5 鳥海山と史跡のみち 16.5km
中山町JR羽前長岡駅～山形市大曲
- 6 玉虫池畔と民話の里を訪ねるみち 9.7km
山形市大曲～山形市湯野
- 7 古墳と古戦場をたどるみち 12.4km
山形市山形～山形市湯野
- 8 崖下街道のみち 6.0km
上山市山下～上山市金山

月山ルート

- 1 根子杉と玉川寺をねぐるみち 13.0km
高森町高森～高森町高森
- 2 羽黒修験道のみち 6.5km
羽黒町文化センター～羽黒町湯野温泉
- 3 月山とお花畑をめぐるみち 5.0km
高森町山六谷～立川町山形山寺

米沢北ルート

- 1 湯けむりとフルーツのみち 11.1km
南陽市湯野温泉～南陽市湯野山
- 2 先人が歩いた信仰のみち 8.9km
南陽市湯野～山形市大曲
- 3 鶴山とタリア園をたどるみち 12.4km
川崎町下小曲～川崎町山形山寺

“新・奥の細道”とは
自分の足でゆっくり歩きながら、森や川、野鳥や虫など豊かな自然にふれあい、また、その地域の特色ある文化や歴史と親しむためのみちです。“新・奥の細道”は正式には東北自然歩道といえます。この自然歩道は、一日で歩ける程度の遊歩道を1つのコースとして、コースの間をバスなどでつなぎながら東北を一周する長距離自然歩道です。そして、この道は福島県白河を起点とし、宮城、岩手、青森、秋田、山形の順で経由して福島県郡山に至るルートになっています。また、この“新・奥の細道”は東北を一周するルートの他に、景観の優れた地域や名勝地等に向かうルートがあります。県内でも、月山ルート・鼠ヶ関ルートなど4つのルートがあり、山形県内のルートをあわせて総延長は45コースで469kmとなっています。